

令和3年度 高山市議会市政クラブ管内視察報告書

1. 視察期間

令和3年6月29日（火）

2. 視察先

乗鞍山麓五色ケ原の森

3. 視察項目

乗鞍山麓五色ケ原の森のうち、特に新コースである「ゴスワラ」を実際に歩き見学する。

4. 視察の目的

新コース「ゴスワラ」を見学し、市政に対する貢献度や費用対効果等を評価し将来性や持続性について検討を行う。



参加議員 渡辺 甚一 沼津 光夫 榎 隆司 中谷 省悟
西本 泰輝 笠原 等 石原 正裕 西田 稔

5. 視察内容

(1) 背景

乗鞍五色ヶ原の森は、約 20 万年前頃から活動を始めた乗鞍火山帯の溶岩流により基盤が形成され、柱状節理（ちゅうじょうせつり）の岩壁、多くの滝、溪流、池や湿原など、多様な自然環境を舞台に、複雑で壮大な自然が育まれており、動植物を間近で観察することができる。

市ではこの豊かな自然を、自然環境学習の拠点として、子どもたちをはじめとした多くの方々の学習の場として活用していただくことを期待している。

広大な 3,000 ヘクタールの森林地帯に、人ひとりが通れるだけの幅の歩道を整備した、それぞれ趣が違う 3 つのコースと、自然に配慮しつつも快適に利用できる山小屋を設置している。

(2) ゴスワラコースの概要

令和元年 6 月 27 日に新しく利用を開始したコースである。

国内において大変貴重な自然のままの森「原生林」や、乗鞍岳の噴火による溶岩塊で形成された「ゴスワラ」、それぞれ趣が異なる美しい「白川（しろかわ）」と「黒川（くろかわ）」の溪流など、五色ヶ原の新しい魅力が満載のコースである。

五色ヶ原の森の中には、コースの出発点や最終地点、また道中の休憩や緊急時に避難できるように山小屋を配置している。

それぞれの山小屋は、豊かな自然の景観を損ねないような外観としており、また自然に配慮しながらも気持ちよく利用できる設備となっている。

すべての山小屋に、洗浄機能付きの洋式便器を設置している。また、一部の小屋には、微生物を活用して汚水を浄化し、トイレの洗浄水として繰り返し使用するバイオトイレを設置、使用する電気も近くの沢の水を使った小型水力発電を用い、自然環境へ最大限の配慮を行っている。

(3) バイオトイレについて

バイオマス（活性炭・高温加工炭）+ バイオ（微生物）の働きで、し尿を分解して、自然蒸発させる処理装置付きの循環式水洗トイレである。一般的に循環式エコトイレは「活性炭汚泥法」に基づく合併浄化槽（合成樹脂）を活用し、その後、余分の水分を除くために循環装置を設けている。それに比べて PGS 方式バイオマス・トイレでは、SF 法という新方式を採用している。そのため、小型化=装置が大幅に軽量化、小面積化。

効率化=活性汚泥法では大量に出る汚泥がごく少量になった。

6. 考察

○ジオパーク推進の観点から令和3年度飛騨山脈ジオパーク推進協議会総会が書面にて開催された。その時の意見・質疑について一部を紹介する。

(問)令和3年度の事業計画に濃飛流紋岩(五色ヶ原)とあるが、五色ヶ原エリアに濃飛流紋岩は分布していないと思われるので、美濃帯堆積岩の誤りではないか？

(答)協議会学術顧問の方々と現地確認をした結果、ゴスワラコースに濃飛流紋岩を確認した。年代測定を今年度中に実施する予定。

(問)ジオパークエリアについて、旧行政区分で線引きされるのは合理的判断と思われるが、線を越えて広がる地質帯(飛騨外縁帯等)の扱いについて柔軟にとらえ、高山市街地でのジオツアー、高山市街地からの参加者のエリアへの導入等を考えられないか。市街地住民にとってもジオパークが身近になるのではないか。

(答)現在は、丹生川町、上宝町・奥飛騨温泉郷のエリアで事業を進めているが、ご意見の通り当協議会としても課題であると考えている。ジオ的な要素に境界はないため、今後、検討していく。

(問)昨年「あおだる」を見に福知山登山をしたが「あおだる」スポットだと気づかない方もおられると思うとすこしもったいない気がした。

(答)福地温泉の「あおだる」は64万年前に噴火した上宝火山の火砕流堆積物として重要なジオサイト「福地壁」とさせていただいている。福知山トレッキングルートの展望台に説明看板が設置可能かを、地元の方々と調整させていただく。

実際にコースを歩いてみてその希少価値を感じる事が出来たが逆に、「歩いてみなければ何も分からない」ということになる。もったいないと思うが限られたガイドの数や自然を守ると言う観点から言えば、入山者数はある程度、絞られた方がよいと思う。

以上